



大森二中だより

令和2年度 大森二中の合言葉「思いやり」

令和2年11月号
大森第二中学校
校長 成清敏治
TEL 3762-6456

エジソンに学ぶ「成功と失敗の哲学」

3年生は今日から三者面談も始まり、現実的な進路選択を決めていく時期になりました。そこで、今日はある人物を通して、皆さんを励ましたいと思います。

「天才とは、1%のひらめきと99%の努力である」「困るということは、次の新しい世界を発見する扉である」などの名言を残したのは、発明家のトーマス・エジソンです。彼は「発明王」とも呼ばれ、生涯に1300もの発明と技術革新を行ったことで有名です。1847年にアメリカオハイオ州で生まれたエジソンは、小学校に入学すると授業中に事あるごとに「なぜ？」を連発して、担任の先生から「君の頭は腐っている」と吐き捨てられ、わずか3ヶ月で校長から退学を勧められ、小学校を中退します。有名なエピソードです。少年時代のエジソンは、母に準備してもらった地下室で黙々と科学実験に没頭したようです。

17歳で初めての発明である、時計を使って電信機が自動で電信を送る機械を発明しました。21歳の時、転機が訪れます。初めて特許を取得した発明品が、全く世の中で採用されませんでした。この経験から、いくら素晴らしい発明をしても人々が喜んでくれなければ何の意味もないことを痛感します。エジソンはそこから、人々の意見や要望をよく聞き、発明に取り組むように考え方、生き方が変わっていきます。22歳で特許を取得した株式相場表示機は業界から大いに歓迎され、その特許権は4万ドル（現在の約2億円相当）で買い取られました。こうしてエジソンは発明家としての道を本格的に歩むこととなります。

彼はその努力家にふさわしい数々の名言を残しています。

「失敗したわけではない。それを誤りだと言っ**て**はいけない。勉強したのだと言**いた**まえ」

「私たちの最大の弱点は諦めることにある。成功するのに最も確実な方法は、常にもう1回だけ試してみる**ことだ**」

「成功しない人がいたとしたら、それは考えることと、努力すること、この2つを**やらない**からではないだろうか」

もちろん、人生には成功も失敗もありますが、失敗をどう捉えるか、成功へ絶えず粘り強く取り組めるかが大事な要因になりそうです。成功してもおごるな。失敗しても卑屈になるな。エジソンの人生はそう語りかけているのではないのでしょうか。また誰かの相談することで、自分の考えを修正できる柔軟性も必要です。1人で生きているけど、1人ではない。みんなで協力し助け合いながら、次のステップに向けて、全力で頑張っていきましょう。

(11月2日 全校朝礼)



【今後の学校行事予定】

11月11日(木)	領域別テスト(3年)	11月30日(月)	生徒朝礼
11月14日(土)	土曜授業	12月3日(木)	三者面談(全)始
11月17日(火)	定期考査(~19日)	12月7日(月)	全校朝礼
11月20日(金)	歯科検診(全)	※3年入試相談 12月15日(火)~	